

ゆたあ〜と

新年のハッ！挨拶

小国公立病院 院長 坂本 英世

新年明けましておめでとうございます。

昨年4月14日と16日に震度7の地震が阿蘇・益城地区で発生し甚大な被害が発生しました。また小国町では10月10日に宮原中心部での火事で23軒が焼失し多くの住民の方が転居や避難所生活を余儀なくされました。被害に遭われた皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

病院の被害は少なかったため震災直後から診療行為を継続して行うことが出来たのは幸いでした。震災関連の外来患者様の診察や入院、お薬を無くされた方への処方や阿蘇市からの転院患者様も受け入れることが出来ました。

又、老健も町と以前より契約を交わしていた福祉避難所としての役割を果たすことが出来ました。

今年は日常の診療はもちろんですが、地域包括ケアの充実に向けてさらに努力して参ります。小国郷医療福祉あんしんネットワークを中心にした医療、福祉、介護それに行政も含めての連携を強め、住民の方がこの地域で最後まで安心して暮らしていけるような地域造りを目指します。その為には住民の皆様方自身の協力と努力が必須です。

皆様方から病院の設備や職員の接遇に関してご指摘やご意見をいただきます。その一つ一つのご意見に対して皆真剣に善処しようとして努力しています。接遇や医療安全に対する委員会や研修会も積極的に行っていきますので、いろんなご意見をいただくことはありがたいと思っております。

これからも常に地域唯一の公立病院としての自覚を持って職員一同努力して参りますのでどうか宜しくお願い致します。

発行

小国公立病院
0967-46-3111

おぐに老人保健施設
0967-46-6111

訪問看護ステーション
0967-46-6050

小国調剤薬局
0967-46-5736

ゆう薬局
0967-46-6320

1月号

平成29年1月4日



『辞める』はなし!!

もの忘れ外来担当 大塚 直尚

平成23年4月に小国公立病院でもの忘れ外来を始めて6年目に入りました。今では約140人の患者さんがあり、初診に1~2ヶ月ほどの待ち時間をいただくようで、お待たせして大変申し訳なく思っております。



始めた当初、私は菊池の民間精神科病院の院長でした。しかし、平成26年の秋に私の後ろ盾になっていた理事長が急死して病院に居辛くなったのと、院長職は忙しくて勉強ができなかったのと、独学ではなくきちんと認知症診療の技術を身に付ける必要があると考えて、平成27年4月に院長を辞め、ある認知症疾患医療センターにヒラの医師として入職しました。院長を降りると、精神科病院組合の理事や各種の団体や協議会の役員など、

それまで『院長』に付いていた名誉職はきれいになくなり(あるものは電話一本でクビでした)、残ったのは資格など自分の実力についたものだけ、これが分相応...と思いました。

ある有力者から懇願され、平成28年4月から、しぶしぶ、かつて辞表を叩き付けて辞めた県立の精神科病院の副院長に就きました。県立病院で久しぶりにお会いした患者さんに「ご栄転です」と言われましたが、民間で院長にもなり、県立に残っていたらとくに副院長になっていたと思うので、「ちっとも！」と言いそうになりましたが、飲み込みました。

思えば24歳の時、コネで入ったテレビ局を不義理をして辞めて精神医学の勉強を始めて以来、幾度か辞表を書きましたが、「辞めるということは自分との勝負だ」ということを、その度に思い知らされます。

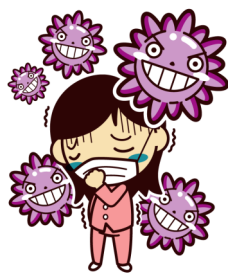
さて当院のもの忘れ外来ですが、これは私が作ったので責任もありますし、絶対に辞めません。そういうことで今後もよろしく願いいたします。

風邪／インフルエンザの現代医学的解釈と漢方

総合診療科 山田 治行

今日、私たちが風邪(カゼ)と呼んでいるのは、ライノウィルスの他数種のウィルスによって引き起こされる上気道の炎症のことで「風邪症候群」とも言います。インフルエンザも同様ですが、更に症状が激しく全身症状を呈する病態です。

最近、ウィルス感染に伴う発熱は生体にとつての治癒(抗病)反応であって、有害反応でないことが分ってきました。ウィルスが侵入すると身体は体温を上昇させウィルスを不活化しようとするのです。そしてその後には発汗することで病邪を身体から除き、解熱/治癒に導きます。ところが、解熱鎮痛剤を使うと返ってウィルスの増殖を助長し罹病期間を延ばしてしまうといった研究結果や、低体温やライ症候群などの重篤な副作用報告さえあります。漢方薬はこれら生体の抗病反応を助け、又、行き過ぎたところは調整して自己の治癒力を引き出すと考えられています。



近年インフルエンザには特効薬が開発されていますが、その適応は限定的で風邪症候群には無効です。

急性アルコール中毒について

総合診療科 外科 園田 明莉

年の初めにはお酒に触れる機会が多くなり、急性アルコール中毒の危険が近付きます。

「酔い」の程度は、血中のアルコールの濃度が上昇することにより、ほろ酔い→酩酊期→泥酔期→昏睡期と進行しますが、飲酒をして30分〜60分程経過しないと血中の濃度は上昇しないため、無自覚のうちに多量に飲んでしまうことに気を付けなければなりません。



急性アルコール中毒の症状は、「呂律が回らない・立てない・嘔吐・悪寒」などがありますが、「いびきをかいたり、

泡を吐いたり、呼びかけに反応しないような昏睡状態」が認められた場合は、大変危険だと判断すべきです。

ただちに救急車を呼び、体を横に向けてるようにして下さい。仰向きだと嘔吐をした際に窒息する危険性があるためです。そして、低体温症を防ぐために毛布や上着などで体を温めて下さい。意識がある場合には、嘔吐に気をつけてお水やお茶を少しずつ飲んでもらうようにしましょう。

迅速な対応が、危険な急性アルコール中毒患者の救命につながります。



~新任紹介~



名前：小泉 さやか
専門：総合内科

はじめまして。熊本赤十字病院から来ました。医師として6年目になります。関東出身で、昨年からは熊本で働いています。東京から来た当初は、言葉の壁に苦労しましたが、今では患者様との会話を楽しみながら診察をしています。12月から2ヶ月と短い期間ですが、小国郷の皆様の健康に少しでもお力添え出来るように頑張りたいと思っています。宜しくお願いします。

職員川柳



午後診で 安心できます 小国GO(郷)!!

~ 作品紹介 ~



<熊本城>



<浮世絵 美人画>



<おぐたん>

~製作方法~



爪楊枝などを利用し、丸める。途中で最後は糊をつける

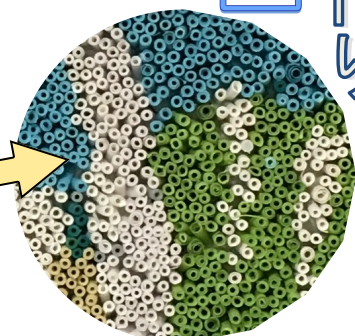


丸めたものを、下絵に合わせて貼り付ける



<通潤橋>

(拡大)



サークル活動の一環としてを壁画作り『ロールアート』をしています。
この作業は均一の幅でカットされている色画用紙を、1つずつ丸め、1つずつ下絵の上に置いて貼り付ける作業の繰り返しです。壁画のサイズにもよりますが、1つの作品が完成するのに数ヶ月かかりますが、利用者のみなさんは、真剣に取り組みられています。手先を使うことで認知症予防、集中することで徘徊防止にもなり、また、完成した時の感動を味わうことができます。
おぐに老健施設内には紹介した壁画の他にもたくさん展示していますので、是非、足をお運び頂き、鑑賞して下さい。

おぐに老健入所者による壁画作り『ペーパーロールアート』

次回は平成29年3月1日配布予定です。お楽しみに!!